

特別支援教育の視点を踏まえた 学校経営構築研究開発事業

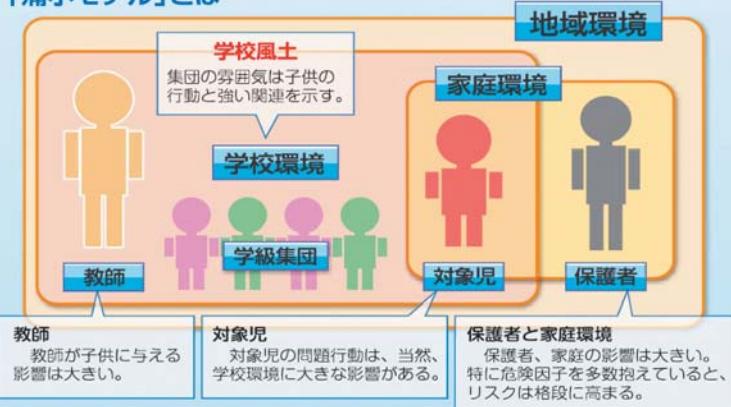
浜松市教育委員会 指導課 教育総合支援センター

問題意識と提案の背景

- 平成29年度は蒲小学校を指定校として、特別な支援が必要な子供たちを包括的に支援する『蒲小モデル』の構築をしてきた。
- 三段階の包括的支援のうち、全ての子供を対象とした予防的支援である一次支援で教師の行動を変えることで子供の行動を変えることを中心に研究を進めた。
- 『蒲小モデル』を深化、発展させ、『丸塚中学校区モデル』を構築し、浜松市全体に広めていく必要がある。

<学校環境の改善は全ての子供にとって予防的にはたらく>

「蒲小モデル」とは



【平成29年度の研究成果】

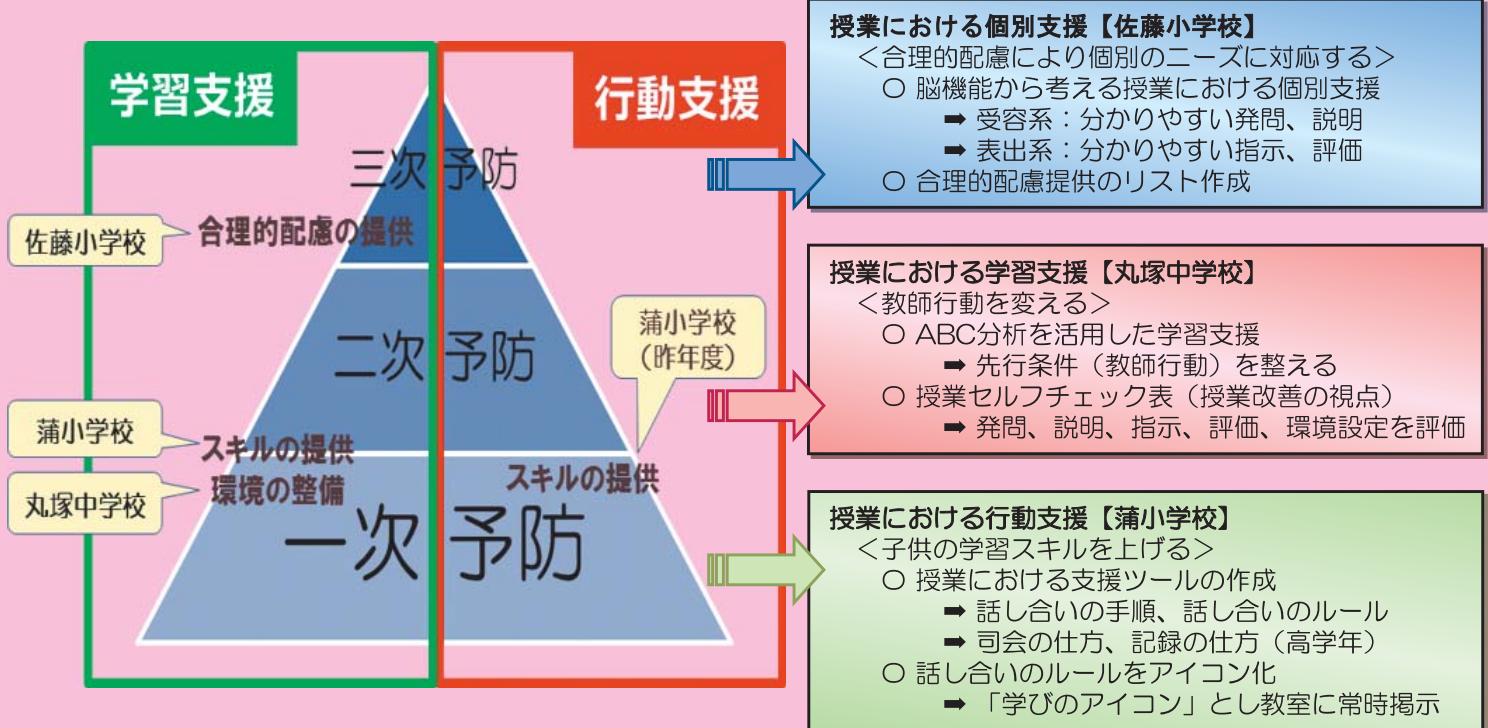
- ・学校風土の向上
- ・学校経営構想『蒲小モデル』の構築
- ・教職員の特別支援教育に関する専門性の向上
- ・授業改善の方向性の明確化
- ・校内支援体制の組織化、関係機関との連携体制の機能化
- ・校内生活のルールや手順、合理的配慮に関するツール等の作成



事業の目的と目標

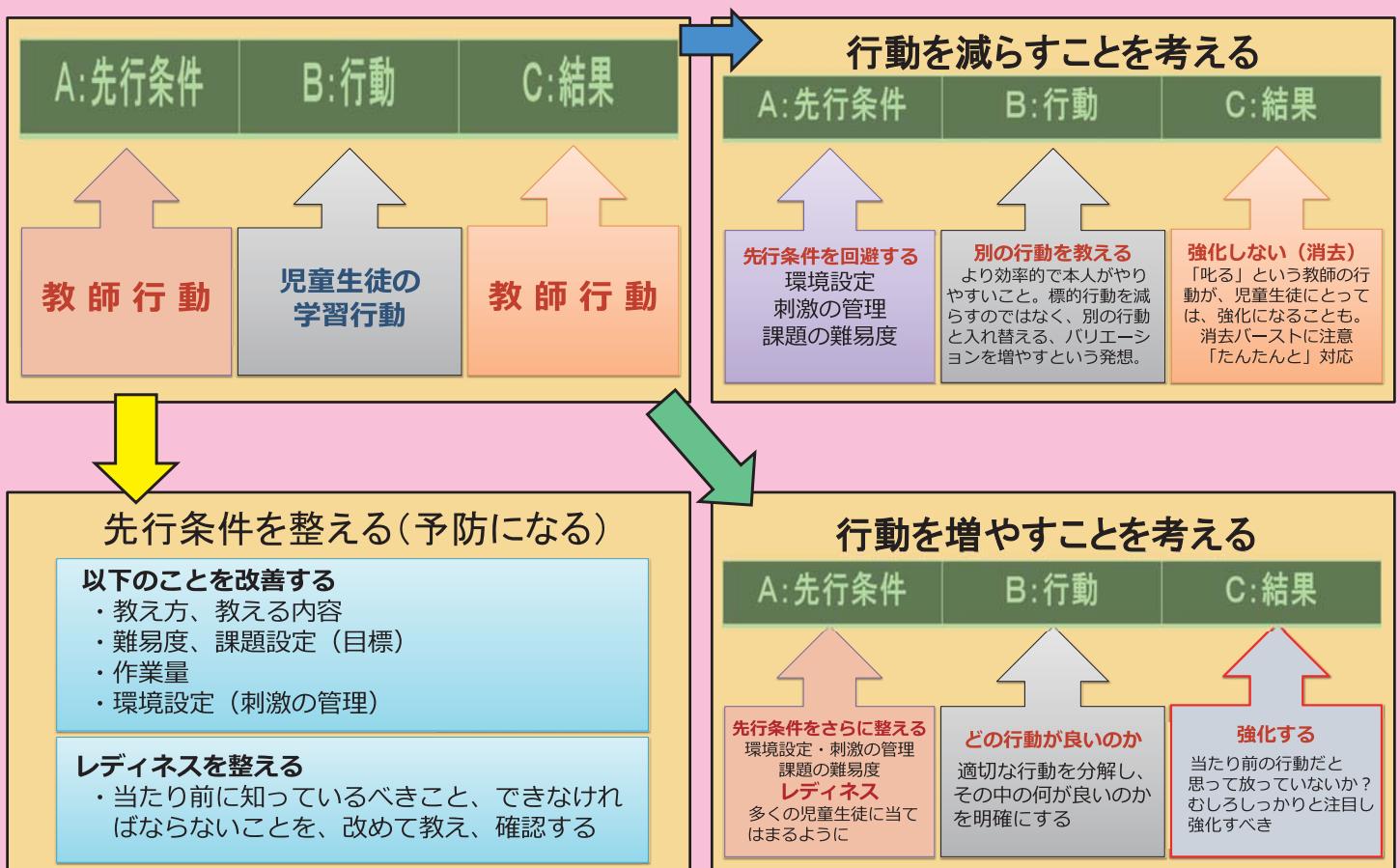
- 市内小中学校に『丸塚中学校区モデル』を広めるためパッケージ化（共有）
 - ・パッケージの内容はカリキュラム（教える内容、順番、教え方）、教材・ツール（テキスト、ワークシート、ポスターなど）、トレーニング（研修）
- 二次予防、三次予防のシステム化
 - ・特別な支援を必要とする子供に対する具体的な支援方法や科学的視点による合理的配慮の提供をシステム化
- 根拠・科学
 - ・共有化を進める根拠は科学
 - ・先行研究や調査の解析結果を利用し、実践の評価を科学的に測定
- 組織的取り組み
 - ・校内支援体制をパッケージ化、共有化

『丸塚中学校区モデル』とは



授業における学習支援の視点 ~ABC分析の活用~

先行条件となる教師行動を改善するため、ABC分析の手法を取り入れ、授業における学習支援方法や事後研修での振り返りの視点とした。



授業における個別支援～佐藤小学校の取り組み～

授業における個別支援を充実し、個別のニーズに組織的に対応するため、脳機能の受容系・表出系の視点から合理的配慮の具体的な支援方法を洗い出し、リストを作成した。

一部抜粋		
教師行動	右の項目（全体支援と同じもの）について、個別の実態に合わせ、より細かくかつより頻度を高く支援を入れる	表情よく授業ができた。 多くの生徒と目が合った。 声の抑揚（強弱・スピードの変化等）に気をつけた。 立ち位置を意図的に変えた。 言葉と動作を結び付ける。 程度を表す（早く・集中するなど）言葉を見える形や具体的な表現に置き換える。 黒板の重要なポイントをマークしたり、色を使ったりして区別・強調する。 漢字の練習では、「タテタテヨコ・・・」などの言語化をする。 聞き取ってほしい要点は、キーワードで示す。 机間巡回により、立ち位置を工夫する。
		興味が持てる発問であった。 子どもに分かる言葉だった。 難易度が適当だった。 ゴール・答え方が子どもにイメージできた。 課題の難易度を選べる。（マス入り・穴うめなど）
		ワークシートを用意する。 解答欄を大きくする。 手順表（箇条書き）でゴールを明示する。
		一文が短く、伝える情報量が適当であった。 順序立てがしっかりしていた。 体験・経験・既習事項と関連づけていた。（類似点や違う点をはっきりさせている。） 視覚的・具体的な資料を用意した。 具体的な経験と結び付けて説明する。
		説明

授業における学習支援～丸塚中学校の取り組み～

授業セルフチェック表を作成し、授業において先行条件となる教師行動改善の視点、授業を振り返る視点を明確化し、授業の改善に取り組んだ。また、デッドマン言葉（※）にならないよう「行動指示」を出したり、指示通りできたことをすかさず褒めたりすることを心掛けて授業を行った。

授業セルフチェック表		
月	日	（　　）（　　）名前
ノンバーバル	チェック項目	チェック！〇×
	表情よく授業ができた。	
	多くの生徒と目が合った。	
	声の抑揚（強弱・スピードの変化等）に気をつけた。 立ち位置を意図的に変えた。	
主発問	興味が持てる発問であった。	
	子どもに分かる言葉だった。	
	難易度が適当だった。	
	ゴール・答え方が子どもにイメージできた。	
説明	一文が短く、伝える情報量が適当であった。 順序立てがしっかりしていた。	
	体験・経験・既習事項と関連づけていた。（類似点や違う点をはっきりさせている。）	
	視覚的・具体的な資料を用意した。	
指示	生徒に目標・ゴールを意識させた。	
	良い例・悪い例を提示した。	
	手順・作業時間がはっきりさせた。（やること3つ以上で視覚支援。）	
	困ったとき・終わったときどうすればよいか指示した。	
評価	前もって児童・生徒に基準を示している。	
	子どもの自己評価を言葉・表情等で認めている。	
	目標と合っている。	
	学習内容のみでなく、行動内容（授業を受けている態度・話し合いの様子）も評価している。	
環境	席の配置はよい。	
	板書が分かりやすかった。	
	資料の量が適当であった。	
	整理整頓された落ち着いた教室であった。	
	全体の時間配分が良かった。	

デッドマン言葉 A B C 事例		
教室が騒がしい時に……	A 口を閉じて（席に戻って） ○○しよう（3行程度感想を書こう）	授業中に居眠りをしている時に A 起きて、この問題を考えよう B 起きよう（顔を洗ってこよう） C 寝ない
集中力がない時に……	B ○○を閉じましょう（席に戻りましょう） C 静かにしなさい しゃべらな	総合判断（A B C） A 行動を変えるための次の指示を付け加えた。 B 否定形を使わない表現で注意した。 C 否定形で行動をやめさせた。
ちょっとのことをどんどん変めよう！		
	○あいつが気持ちいい！ ○黒板がきれい！ ○準備が早い！ ○勉強しやすい机の上だ！ ○見やすいノートだね！ ○ノートがしっかりされたね！ ○字が丁寧！ ○部活動の準備がんばっているね！ ○ご用聞き、いつも忘れず来られるね！ ○前より、○○がすごく成長したね！	○自分たちで考えて行動できただね！ ○たくさん出手したね！ ○大きな声で呼びかけしたね！ ○掃除が黙ってできているね！ ○出席番号順に提出物をそろえてくれて気が利くね！ ○笑顔がいいね！ ○集中してできているね！ ○いい意見が言えたね！ ○ワークシートにたくさん書いたね！ ○真剣に話が聞けたね！ ○グループでの話し合いが充実したね！

※デッドマン（死人）言葉とは

デッドマン（死人）にできることは「行動」ではないということから、「静かにしている」「友達をたたかない」「みんなに認められる」など、否定形、受身形、外から変化を観察できないことは行動ではない。

授業における行動支援～蒲小学校の取り組み～

授業における子供の行動を変えるため、話し合いの手順やルール、司会の仕方、記録の仕方などの一覧(ツール)を作成し、学習スキルの向上を目指した。

また、作成したツールのうち、学習のルールを「学びのアイコン」としてアイコン化し、常時教室に掲示し、子供たちの意識化を図った。

「話し合いのツール」

話し合いの手順	話し合いのルール	司会の仕方	記録の仕方
 ※ 自分の意見をまとめます。 ① 司会と記録を決めます。 ② 司会が、何について話し合うかを確認します。 ③ 一人ずつ意見を発表していきます。 ④ たがいの考えについて質問したり、それに答えたりします。 ⑤ 司会がまとめます。	 ・話題にそって話し合います。 ・友達の意見に反応します。 (うなづく・「なるほど」「へえ」「そうか」) ・どんな意見も最後まで聞きます。 ・考え方(結論)→理由の順に話します。 ・最後になって反対しません。	 ・全員の意見を順番に聞きます。 ・時間内に話し合いが終わるよう注意します。 ・意見をまとめます。	 ・書き方を工夫します。 色、大きさ 矢印 線を引く。 キーワードを書く。 ・決定したことが分かるようにします。

「学びのアイコン」



「話題にそって
話し合います」

「友達の意見に
反応します」

「どんな意見も
最後まで聞きます」

「考え方(結論)→
理由の順に話します」

「最後になって
反対しません」

成果と課題

＜成果＞

○教職員の特別（発達）支援教育に関する意識が高まり、授業における教師の行動が改善された。

- ・発達障害の基本的な知識や合理的配慮の考え方
- ・ABC分析による行動の理解や支援方法
- ・脳機能の受容系、表出系により子供の行動・支援を考える視点の理解

○授業における学習支援や行動支援のパッケージ化を進めることができた。

- ・授業における個別支援に対応するための合理的配慮のリスト
- ・子供の好ましい学習行動を強化するための授業セルフチェック表
- ・授業における子供たちの学習スキル向上のための話し合いのツール、アイコン

＜課題＞

○科学的根拠に基づいた特別（発達）支援教育を学校全体で推進するための包括的システム『丸塚中学校区モデル』を確立できた。このモデルの理念や研究内容、成果等を市内小中学校に周知し、実践校を広げていく。

○多くの学校に広めるため、ツールのパッケージ化を行ってきた。市内各小中学校でこのシステムを活用するため、使う側の学校への内容や使い方の詳しい伝達をしていく必要がある。